

第119期

中間報告書

平成26年4月1日～平成26年9月30日

昭和パックス株式会社

株主の皆様へ

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成26年9月30日をもって当社第119期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）の前半を終了いたしましたので、業績についてご報告申し上げます。平成26年12月



代表取締役社長 **大西 亮**

事業の概況

当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）におけるわが国経済は、消費増税前の駆け込み需要の反動で4～6月期の実質GDP成長率は前期比で大きく低下しました。消費増税の影響を最も受けた個人消費が大きく落ち込んだほか、住宅投資、設備投資も減少し、下支え役が期待された海外需要も伸びませんでした。7～9月期は反動の影響が和らぎ、設備投資、公共投資の増加から実質GDP成長率の改善が見込まれますが、物価上昇に伴う実質所得の低下が影響してか個人消費は低迷が続く、鉱工業生産も生産調整が長引いて四半期ベースでは2期続けての減産でした。輸出は米国、ASEAN向けを中心に持ち直しが見られますがその動きは緩慢です。

年度後半は、雇用環境の改善を背景に個人消費が徐々に持ち直し、設備投資が拡大基調を取り戻すなど景気回復に向けた動きが広がると期待されます。しかし、景気対策効果のピークアウトで公共投資が減少傾向となることや、在庫水準の状況によっては鉱工業生産の回復が遅れかねないことなどの不安要因があります。

当社グループの主要事業は国内の生産動向の影響を受けやすい産業用包装資材の製造・販売であります。当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、重包装袋、フィルム製品で国内の需要の落ち込みはありましたが、海外子会社の好調や、コンテナの販売増があり、売上高は

9,802百万円で、前年同期に比して38百万円の増収となりました。しかし、損益については、前年度に実行した設備投資による減価償却費等の経費の増加や、原材料費率の上昇を打ち消すことができず、営業利益408百万円（前年同期比65百万円の減益）、経常利益466百万円（同88百万円の減益）、四半期純利益306百万円（同65百万円の減益）となりました。

セグメントの業績を示すと以下の通りであります。

○重包装袋

重包装袋セグメントの主力製品であるクラフト紙袋は、業界全体の当第2四半期連結累計期間出荷数量（ゴミ袋を除く）は、前年同期比△4.2%と減少しました。1～3月期に好調だった反動で4～6月期が大きく落ち込み、7～9月期は合成樹脂、飼料など前年同期比で増加した用途もありましたが、4～9月累計ではほぼすべての用途で前年を下回りました。

当社は、その他食品、化学薬品などの用途は前年同期より数量を伸ばしましたが、米麦、砂糖・甘味、合成樹脂などの用途では数量減となり、全体では前年比2.3%の減少となりました。

子会社の売上数量は、九州紙工(株)は前年同期比で若干の増加でしたが、山陰製袋工業(株)の当第2四半期連結累計期間（1～6月）は米麦袋が減って前年同期比で僅かながら減少しました。タイ昭和パックス(株)の第2四半期連結累計期間（1～6月）はタイ国内の景気の退潮をASEAN域内と中国向けの輸出でカバーし、増設した底貼袋設備も寄与して売上数量を前年同期比で8.4%伸ばしました。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間売上高は6,306百万円で、前年同期に対し82百万円の減収となりました。

○フィルム製品

フィルム製品の業界全体の当第2四半期連結累計期間の出荷量は、前年同期比で産業用、農業用とも減少しました。4～6月期は農業用途で消費増税後の反動減が顕著でしたが、7～9月期も産業用、農業用いずれも出荷数量は伸びませんでした。主原材料であるポリエチレン樹脂価格の値上がり製品価格に転嫁しきれないため、フィルム加工業

の採算はますます厳しくなっています。

当社の売上数量は、7～9月でやや持ち直したものの、4～6月期の農業用の落ち込みが大きく、全体の累計で前年同期比△4.2%の結果でした。一方で連結子会社(株)ネスコが取り扱う軟包装用途等の売上数量が増えたことで、連結の売上高は僅かながら伸びました。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間売上高は1,828百万円で、前年同期に対し12百万円の増収となりました。

○コンテナー

粒状内容物の大型輸送用ワンウェイ・フレコンは、土木用途、除染用途の需要増加で海外からの輸入品を主体として前年同期比で国内の流通量が大きく増えたと推測されます。

当社のワンウェイ・フレコン「エルコン」の売上数量は、自社製品は若干減少しましたが、農産物輸送需要を取り込んで7～9月期に輸入販売品を増やし、全体では前年同期比+8.4%でした。大型コンテナーバッグ「バルコン」もまだ絶対数量は少ないですが前年同期比で売上数量+18.0%となりました。液体輸送用では、1,000ℓ用液体輸送用コンテナ内袋「エスキューブ」は順調に数量を伸ばしていますが、20,000ℓ用液体輸送用コンテナ内袋「エスタンク」は客先の販売量減少で数量減となりました。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間売上高は899百万円で、前年同期に対し59百万円の増収となりました。

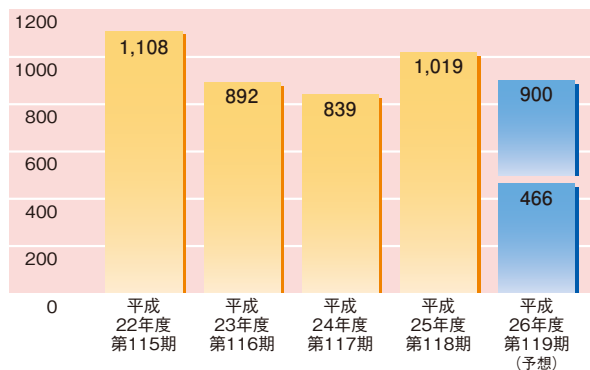
○不動産賃貸

賃貸用不動産の内容に大きな変動はありません。当セグメントの当第2四半期連結累計期間売上高は前年同期に対して3百万円増加し、131百万円となりました。

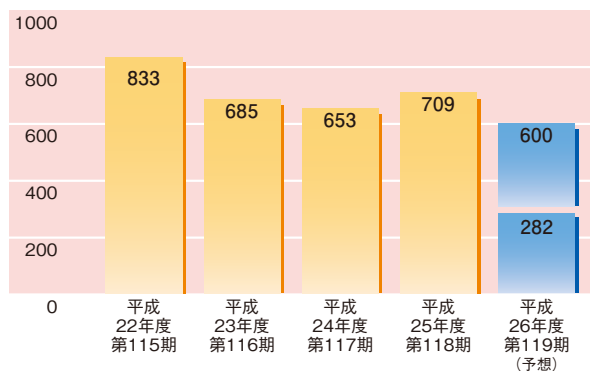
当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、上記のとおり、前年同期比で増収ながら減益の結果となりました。第3～4四半期の景気動向は現時点で見通しは困難ですが、当社グループは新開発製品の販売や生産の効率化、海外での販売の一層の拡大などによって、売上と利益の伸長を図ってまいります。

経常利益 (単位：百万円)

連結



単体



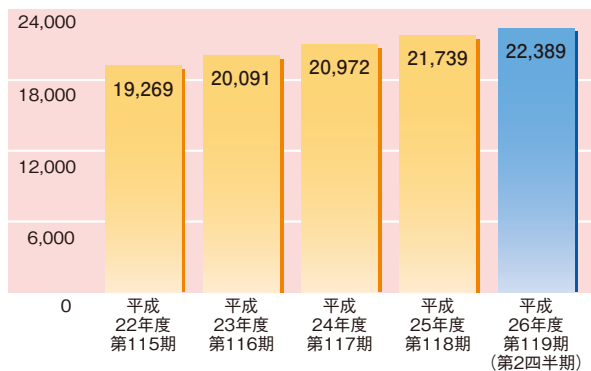
連結決算の概要

連結貸借対照表 (単位：千円)

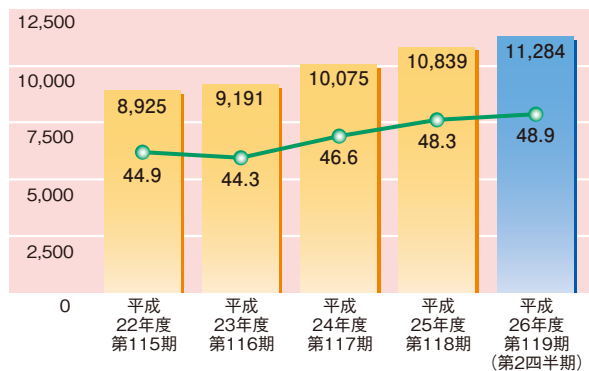
科 目	平成26年9月30日現在	平成25年9月30日現在
(資産の部)	(22,389,590)	(21,894,820)
流動資産	13,351,831	13,018,647
現金・預金	4,501,338	4,641,301
受取手形・売掛金	5,970,982	5,685,731
棚卸資産	2,403,886	2,257,933
その他	489,596	447,903
貸倒引当金	△ 13,972	△ 14,222
固定資産	9,037,759	8,876,173
有形固定資産	4,992,064	4,995,621
建物及び構築物	2,281,061	2,372,554
機械装置及び運搬具	1,674,692	1,255,438
その他	1,036,309	1,367,628
無形固定資産	87,163	54,126
投資等	3,958,531	3,826,425
投資有価証券	3,402,970	3,315,380
その他	611,679	567,241
貸倒引当金	△ 56,117	△ 56,196
合 計	22,389,590	21,894,820

科 目	平成26年9月30日現在	平成25年9月30日現在
(負債の部)	(11,104,788)	(11,095,203)
流動負債	9,501,667	9,026,704
支払手形・買掛金	4,473,361	4,113,608
短期借入金	3,676,360	3,246,480
その他	1,351,945	1,666,615
固定負債	1,603,121	2,068,498
長期借入金	167,000	628,000
その他	1,436,121	1,440,498
(純資産の部)	(11,284,801)	(10,799,617)
株主資本	10,049,351	9,438,951
資本金	640,500	640,500
資本剰余金	289,846	289,846
利益剰余金	9,126,867	8,516,107
自己株式	△ 7,862	△ 7,502
その他の包括利益累計額	889,957	1,030,427
評価差額金	975,830	956,078
為替換算調整勘定	58,407	74,349
退職給付に係る調整累計額	△ 144,279	—
少数株主持分	345,492	330,238
合 計	22,389,590	21,894,820

総資産 (単位：百万円)



純資産 (単位：百万円) 自己資本比率 (単位：%)



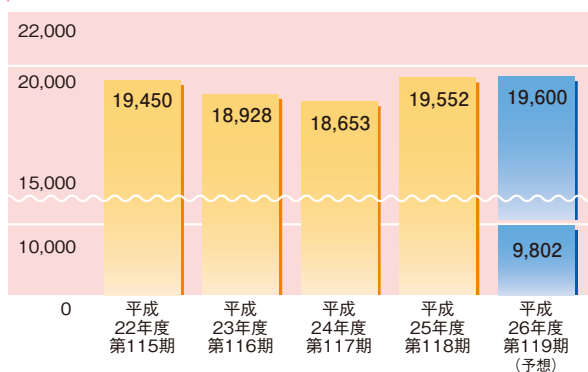
連結損益計算書 (単位：千円)

科 目	平成26年4月 1日から 平成26年9月30日まで	平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで
売 上 高	9,802,864	9,764,686
売 上 原 価	8,134,191	8,065,533
販売費・一般管理費	1,260,265	1,225,408
営 業 利 益	408,407	473,743
営 業 外 収 益	84,375	111,812
営 業 外 費 用	26,469	30,614
経 常 利 益	466,313	554,941
特 別 利 益	357	200
特 別 損 失	643	504
税金等調整前四半期純利益	466,026	554,638
法人税・住民税・事業税	145,690	169,346
法人税等調整額	1,765	380
少数株主損益調整前 四 半 期 純 利 益	318,570	384,911
少 数 株 主 利 益	11,842	12,390
四 半 期 純 利 益	306,727	372,521

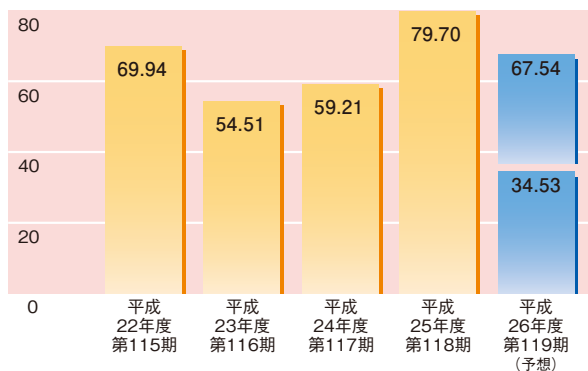
連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (単位：千円)

	平成26年4月 1日から 平成26年9月30日まで	平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	936,800	871,101
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 357,928	△ 428,849
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 70,565	29,728
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 7,684	30,279
現金及び現金同等物の増減額	500,621	502,260
現金及び現金同等物の期首残高	3,693,050	3,832,537
現金及び現金同等物の期末残高	4,193,671	4,334,797

売上高 (単位：百万円)



1株当たり当期純利益 (単位：円)



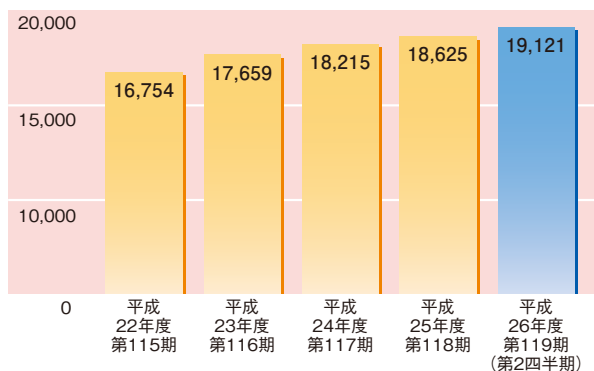
単独決算の概要

貸借対照表 (単位：千円)

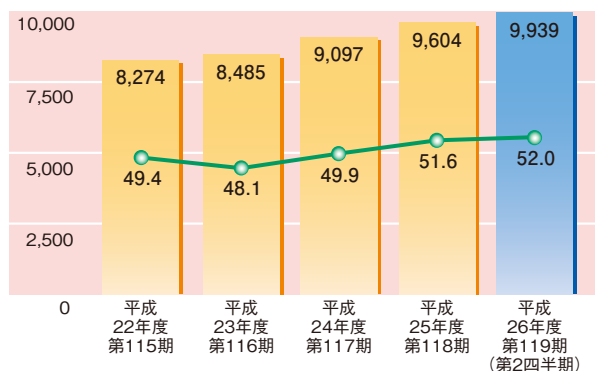
科 目	平成26年9月30日現在	平成25年9月30日現在
(資産の部)	(19,121,260)	(18,690,772)
流動資産	10,651,421	10,545,474
現金・預金	3,376,963	3,598,290
受取手形・売掛金	5,071,176	4,816,866
棚卸資産	1,750,817	1,720,488
その他	452,997	410,334
貸倒引当金	△ 534	△ 506
固定資産	8,469,839	8,145,298
有形固定資産	3,356,652	3,284,469
建物	1,645,862	1,706,399
機械装置	1,074,752	827,811
その他	636,037	750,258
無形固定資産	73,181	44,404
投資等	5,040,004	4,816,424
投資有価証券	3,339,680	3,256,527
その他	1,708,622	1,568,196
貸倒引当金	△ 8,298	△ 8,298
合 計	19,121,260	18,690,772

科 目	平成26年9月30日現在	平成25年9月30日現在
(負債の部)	(9,181,939)	(9,152,752)
流動負債	7,873,297	7,278,743
支払手形・買掛金	4,043,097	3,711,108
短期借入金	2,685,000	2,085,000
その他	1,145,199	1,482,634
固定負債	1,308,642	1,874,008
長期借入金	—	600,000
退職給付引当金	120,503	168,025
役員退職慰労引当金	149,942	125,808
その他	1,038,195	980,174
(純資産の部)	(9,939,321)	(9,538,019)
株主資本	8,980,819	8,597,280
資本金	640,500	640,500
資本剰余金	289,846	289,846
資本準備金	289,846	289,846
利益剰余金	8,058,335	7,674,436
利益準備金	160,125	160,125
任意積立金	7,280,788	7,001,443
[配当平均積立金]	[426,564]	[426,564]
繰越利益剰余金	617,422	512,867
[当期純利益]	[185,344]	[226,591]
自己株式	△ 7,862	△ 7,502
評価・換算差額等	958,501	940,739
合 計	19,121,260	18,690,772

総資産 (単位：百万円)



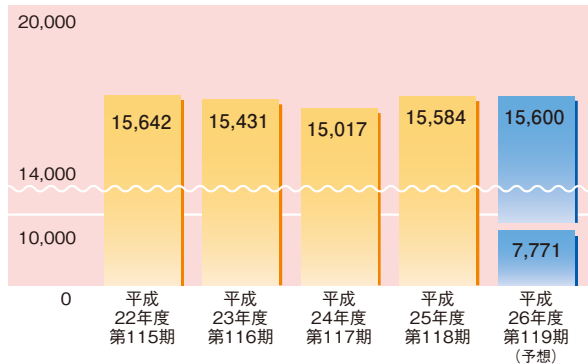
純資産 (単位：百万円) 自己資本比率 (単位：%)



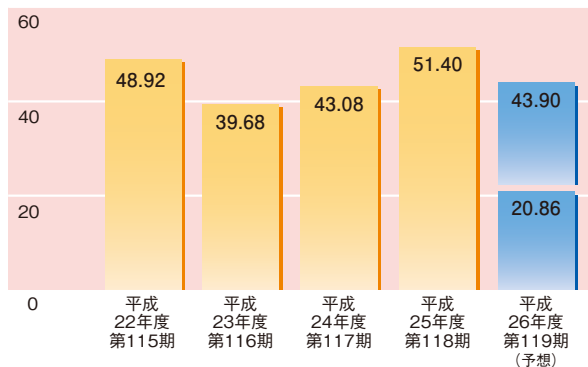
損益計算書 (単位：千円)

科 目	平成26年4月 1日から 平成26年9月30日まで	平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで
売 上 高	7,771,375	7,741,323
売 上 原 価	6,529,881	6,440,311
販売費・一般管理費	1,010,260	993,999
営業利益	231,234	307,013
営業外収益	67,974	70,050
営業外費用	16,220	18,176
経常利益	282,988	358,887
特別利益	—	200
特別損失	643	496
税引前四半期純利益	282,344	358,591
法人税・住民税・事業税	97,000	132,000
四半期純利益	185,344	226,591

売上高 (単位：百万円)



1株当たり当期純利益 (単位：円)



トピックス

当社はこのほど、下記の新製品を開発、販売を開始しました。

ゼラストOPシュリンクフィルム (屋外保管用防錆シュリンクフィルム)

防錆機能を有する大型シュリンクフィルムです。

保管対象物にかぶせて熱を加えると、収縮し、密着するので、汚れが付きにくくなります。またフィルム中の防錆剤の働きによって、錆の発生を抑制します。大型製品の包装に一般的に使用されるブルーシート等と比較して、屋外保管用の包装として適しています。



鉄道車両の屋外保管



大型機械の屋外保管

トピックス/会社データ

SVパック

従来の両底貼袋より、粉体製品の漏れを更に抑制できるように開発した「進化する両底貼袋」です。(特許出願しました。)

充填口側底貼部に入れた内力紙によって接着性が高まるほか、内力紙にスリットを施し充填口とすることで内容物の内圧によって弁の機能が高まり、粉漏れを抑えます。

既存の設備で充填・口封が可能のため、採用にあたって、新規の設備を導入する必要は、ありません。

今後も新しい機能を付加し、進化を続けていきます。



■設立

昭和10年12月20日

■資本金

6億4,050万円

■主要な事業内容

クラフト紙袋、樹脂袋、合成樹脂製品の製造販売および各種包装容器、包装材料、包装関係機械の製造販売

■役員 (取締役および監査役) (平成26年9月30日現在)

代表取締役会長	河野 弘 征	
代表取締役社長	大西 亮	
常務取締役	白方 茂 樹	営業本部長
常務取締役	土田 隆 夫	㈱昭和パックス 代表取締役社長
常務取締役	平野 正 春	生産本部長
取締役	花山 宜 久	㈱ネスコ 代表取締役社長
取締役	飯崎 充	管理本部長
常勤監査役	佐藤 隆	
監査役	藤岡 貞 章	㈱サンエー化研 常務取締役
監査役	鈴木 直 樹	新生紙バルブ商事㈱ 常勤監査役

※藤岡貞章氏および鈴木直樹氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

事業所

本 社	〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2番12号 電話 03(3269)5111
支 店	大阪、西日本(山口)、中部(名古屋)、東北(仙台)
工 場	東京(埼玉)、防府(山口)、富山、亀山(三重)、 盛岡(岩手)、掛川(静岡)
子 会 社	九州紙工(鹿児島)、ネスコ(東京)、山陰製袋工業 (島根)、山陰パック(島根)、昭友商事(東京)、 タイ昭和パックス(タイ王国)

株主メモ

事 業 年 度	4月1日～翌年3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
期 末 配 当 金 支 払 株 主 確 定 日	3月31日
中 間 配 当 金 支 払 株 主 確 定 日	9月30日
基 準 日	定時株主総会については、3月31日 その他定款に定めがある場合のほか、 必要があるときはあらかじめ公告 する一定の日
株 主 名 簿 管 理 人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
お 取 扱 窓 口	お取引の証券会社等。特別口座管理 の場合は、特別口座管理機関のお取 扱店。
特別口座管理機関お取扱店	みずほ証券およびみずほ信託銀行 フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
未 払 配 当 金 の お 支 払	みずほ信託銀行 本店および全国各 支店 みずほ銀行 本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)
単 元 株 式 数	1,000株
公 告 方 法	日本経済新聞に掲載